万太郎谷本谷 沢登り

◆日程：2023 年 9 月 2 日(土)～3 日(日)
◆形態：沢登り
◆人数 2 名 ： K林(L,記録)、 A原

9 月 2 日(土)
土樽駅(8:30)～二ノ滝上 テン場(14:30)

土樽駅に到着後 五策新道方面に 1 時間弱歩いて最初の堰堤を超えた所から入渓。さらに堰堤を 2 つ超えて ようやく沢歩きらしい沢歩きが始まる。しばらくは河原や乾いた岩の上を歩き、大ベタテ沢を過ぎてから水の中を歩く。少雨で水の量は少ないようだが白い岩と水のブルーのコントラストが素晴らしい。最初の魚留の滝は それなりの流れの抵抗を受けておまけに最初の一歩がヌメヌメで立ち込めず、今回唯一の途中敗退で巻く。しばらく歩くと関越トンネル排気口。自然の中から見ると異物そのものだが ともかくデカい。しばらく進むと最初のハイライトのオキドウキョウの瀞場。

一段目はほとんど足がつくので左壁をへつって最後壁を一蹴りで滝の落ち口へ。猛烈なシャワーを浴びながら落ち口を突破。
二段目は気持ちよく泳いで滝の落ち口へ。ここは簡単に突破。気温が高く水温も低くないので実に気持ちよく水遊びができた。
少し先で右手に井戸小屋沢を分けて ここからは白い岩と奇麗な水のコントラストが素晴らしい中 快適に進む。この先一ノ滝までは登れそうな滝は全部強引に登り、気持ち良く滑と小滝を超えていく。

しばらく進むと本日２番目のハイライトの一ノ滝(20m)に到着。先行パーティーがロープで荷物を引き上げようとしていたが引き上げられず しばらく待たされる。先行パーティーが抜けた後 K林リードで登るが意外と傾斜が有り、岩も逆層気味で少し手ごわかった。核心部の２個所に残置ハーケンが打ってあり助かった。大きい滝なので持参した無線機が役にたった。

さらに進むと二ノ滝。ここは簡単で左岸をフリーで登る。この先はテン場を探しながら歩き先行パーティーを抜いてしばらくして右岸の少し高台に、手前が整地してあって奥の草地が そのまま寝られそうな優良物件を見つけて ここをテン場にする事にして本日の行動は終了。

薪を拾い、盛大ではないが焚火を囲んで宴会開始。つまみを幾つか作りながら飲んで、メインは炊いたご飯にマーボー春雨を載せたマーボー春雨丼。ボリューム満点で とても美味しかった。A原シェフに感謝！

夕食後は焚火を囲んで ダラダラ酒を飲む至極の時間。T シャツでも寒くなく虫もいなくて とても快適な夜だった。

今回軽量化のために、会装備のタープの替わりに 1 人用のツェルトを持参した。四隅に細引きを付けてタープと同様に張れば２人までは余裕で寝られた。

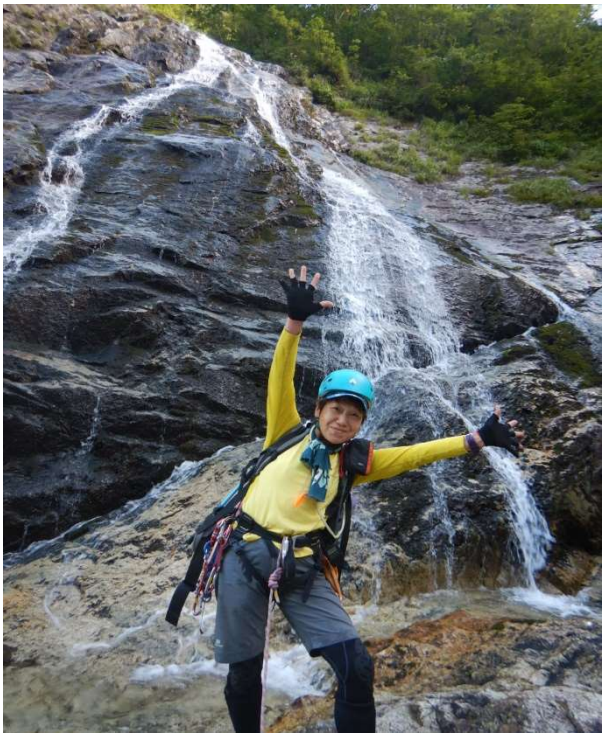
ただし、身長ぎりぎりの長さしかないので、風を伴った雨が降ると濡れてしまいそう。

9 月 3 日(日)

テン場(07:00)～谷川岳肩の小屋(11:45)～天神平(13:40)

5 時に起きるつもりだったが少し寝坊。お湯を沸かすだけの朝食を取って支度をして出発。天気も良く、気持ちよく歩き出す。30 分ほどで、本日最大のハイライトの三ノ滝。昨日 後から来た単独の人が右壁の易しいルートに取り付いている。しばしオブザベーションして

滝のすぐ右の傾斜のある岩を登れると判断し、A原さんに確保してもらって登攀開始。要所に残置ハーケンが打ってあるが朝一の登攀なので少し緊張する。
一段目を抜けて二段目は右上に走る細いバンド伝いに登るが メチャクチャ滑っていてた。かなり上がった所から灌木沿いに左にトラバース。50mロープが滝口の少し手前で一杯となってしまったが、その上は易しいので問題無し。



三ノ滝を抜けた後はキレイな 3 段のトイ状の滝を抜けて、次第に水量が減る。このあたりから滑りがひどくなる。
標高 1300m あたりで水が枯れて両側から被さる笹をかき分けながら登る区間が長くなる。慎重にルートを選んだので深い笹のかき分けはあったものの、藪漕ぎらしい藪漕ぎ無しに頂上直下の肩の小屋のすぐ下の登山道に出た。いやー 疲れたけど充実した沢でした。
小屋の外のベンチで一休みして、目の前の谷川岳のピークには全く興味もなく下山開始。天神平は風が吹き抜けて山頂直下より涼しかった。

夏季限定の片道 1800 円の高い高い谷川岳ロープーウェイで下り、バスで水上に出て、上越線で一駅の上牧の温泉に入って帰宅した。

積年の宿題の沢だったが、素晴らしい沢旅でした。